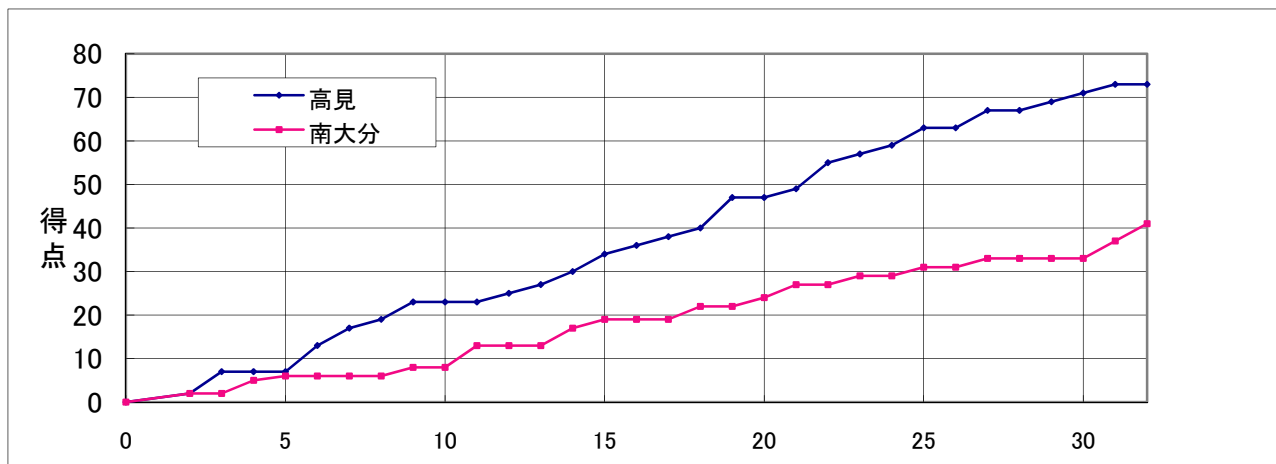


大会名	平成21年度 第30回全九州中学生 バスケットボール春季選手権大会	A3	12:40	女子決勝戦															
		高見 73 (福岡1位) ○	<table border="1"> <tr><td>19</td><td>—</td><td>6</td></tr> <tr><td>17</td><td>—</td><td>13</td></tr> <tr><td>23</td><td>—</td><td>10</td></tr> <tr><td>14</td><td>—</td><td>12</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> </table>	19	—	6	17	—	13	23	—	10	14	—	12	—	—	—	41 南大分 ● (大分1位)
				19	—	6													
17	—	13																	
23	—	10																	
14	—	12																	
—	—	—																	
期日	2010年(平成22年)8月7日(土)																		
会場	大分県立総合体育館		主審 津田 博夫 副審 江原 直樹																



1Q・2Q		3Q・4Q		OT1	OT2
—	—	—	—	—	—

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	高橋 幸奈 (C)	0	0	0	0	0
5	* 水上 千聖	13	3	2	0	0
6	栗原 沙妃女	0	0	0	0	0
7	二ノ宮 可南	0	0	0	0	0
8	* 荒川 沙笑子	6	0	3	0	1
9	二見 捺央	—	—	—	—	—
10	* 萩尾 千尋	20	0	10	0	1
11	中尾 イダリア	0	0	0	0	0
12	栗原 颯生	—	—	—	—	—
13	藤井 園子	—	—	—	—	—
14	* 森田 菜奈枝	18	0	9	0	0
15	永野 倫后	0	0	0	0	1
16	* 有田 かな	16	0	7	2	3
17	森 彩乃	—	—	—	—	—
18	脇 梨奈乃	—	—	—	—	—
コーチ	山 崎 修	/	/	/	/	/
合計		73	3	31	2	6

1Q・2Q		3Q・4Q		OT1	OT2
13:07	—	—	—	—	—

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 足立 結唯 (C)	8	0	3	2	2
5	* 後藤 優	18	3	4	1	2
6	* 芳山 愛実	0	0	0	0	0
7	* 井上 春佳	15	0	7	1	1
8	平迫 蒼	0	0	0	0	0
9	近藤 有紗	—	—	—	—	—
10	瀬山 楓	0	0	0	0	0
11	* 毛利 葉月	0	0	0	0	1
12	後藤 優飛	—	—	—	—	—
13	吉田 真弓	—	—	—	—	—
14	児玉 樹里	—	—	—	—	—
15	藤柴 愛	—	—	—	—	—
16	下高 美咲	—	—	—	—	—
17	八尋 加那子	—	—	—	—	—
18	村上 由華	—	—	—	—	—
コーチ	瀬山 英則	/	/	/	/	/
合計		41	3	14	4	6

\*…スターター (C)…キャプテン 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル R…リバウンド As…アシスト

## 戦評

春季九州大会と同カードとなった女子決勝戦。2連覇を狙う高見中と念願の決勝コートにたった南大分中。

1Q、高見中はオールコートプレス、南大分中はマンツーマンディフェンスでスタート。両チームとも決勝戦の硬さからなかなかシュートが決まらない。先手をとったのは南大分中。#4足立がシュートを決める。その後、高見#14森田、#10萩尾を中心に得意の速攻と1on1で徐々に南大分を翻弄し始める。19-6高見リードで1Qを終了する。

2Q、南大分は#4足立、#5後藤、#7井上を中心に反撃を試みるが、高見#16有田などの厳しいディフェンスや巧みなパス回しにより徐々に得点が離れていく。南大分は、#7井上のポストプレーで得点するものの、その後も高見中は、#14森田が起点となり攻撃の手を緩めない。36-19高見17点リードで前半を終了する。

3Q、南大分#5後藤が3Pを決め、反撃を試みるが、直後に高見#5水上が3Pを決め返す。南大分はオールコートディフェンスに対応しようとするが、高見のダブルチーム、ローテーションディフェンスによるプレッシャーが強く、南大分を苦しめる。高見は#8荒川のアグレッシブなオフェンスリバウンド、速攻・アーリーオフェンスで得点を重ねる。59-29で3Qを終了する。

4Q、高見の多彩な攻撃が続き、リードは広がっていく。南大分は#6芳山、#11毛利がリバウンドに頑張りを見せ、#7井上の巧みなポストプレーで反撃する。高見は、#10萩尾が華麗な1on1で得点を重ね、73-41で高見中が2年連続の優勝を飾った。最後まで諦めずに粘り強く戦った南大分中の健闘を称えたい。両チームの全国大会での活躍とともに、高見中悲願の全国制覇を期待したい。

© 2010 Yuzo Kosaka All Rights Reserved Vol.0063

記者 西川 吉田 (所属) 大分県中体連バスケット専門部